

2018年11月3日 (土)

BIO Mimetics

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第83回 北海道とバイオミメティクスを考える その7 持続可能なパッケージング

“紙でできることは紙で” ～日本製紙による持続可能な 包装材料の開発～

日本製紙株式会社 技術調査役

内村 元一

近年、地球温暖化や海洋ごみ問題などの観点から“サステナビリティ”や“サーキュラーエコノミー”に配慮したパッケージ設計が求められています。

当社としても、再生可能な循環型資源である「紙」に様々な機能を付与することで、社会課題解決に貢献できるパッケージ素材・製品の開発を進めてきましたが、この度、「紙」にバリア性を付与した環境に優しいバリア素材「SHIELDPLUS (シールドプラス)」の上市に至り、国内外から大きな反響を頂いております。

ここでは、パッケージを取り巻く業界動向と“紙でできることは紙で”という理念に基づく、「SHIELDPLUS」を軸とした当社パッケージ開発についてご紹介させていただきます。



紙の原料のセルロース（パルプ）は、再生可能材料で良好な生分解性を有します。しかも、地球上で最も多量に生産されているバイオマスです。この天然資源を、ポリエチレンやペットに代わるパッケージ材料としてもっともっと活用するために、撥水技術は大変有効です。（超）撥水技術によって拓ける、紙の新しい可能性について述べてみたいと思います。



撥水技術で紙は変わる

元・北海道大学電子科学研究所 教授

辻井 薫

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
協賛：千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター
北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL:011-706-2658 FAX:011-706-4029
E-mail: museum_jimu@museum.hokudai.ac.jp

会場：北海道大学総合博物館/1階 「知の交流」
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分